



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント・  
編集後記・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究  
1974, 23(3): 182-197

ISSUE DATE:

1974-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/88878>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
昭和49年12月20日発行(元月1回20日発行)  
物性研究 第23巻 第3号

vol. 23 no. 3

# 物性研究

1974/12



1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、また掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上でprivate communication 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。原稿は400字詰原稿用紙を使用し、原則として30枚以内とします。30枚を大巾に越える場合は、内容の概略、予定の頁数をそえて編集部にご申し出下さい。
2. 数式、記号の書き方はProgress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、oとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv等が一番間違いやすい。
3. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
4. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
5. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らない図(13cm×19cm)は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
6. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
7. **別刷は原則として作りません。**どうしても別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p: 物研出来上り頁数

x: 別刷所要部数

a: 別刷1頁の代金 3円

b: 製本代(別刷1部につき) 30円

別刷代 = (ap + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受とってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

8. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、また掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上でprivate communication扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。原稿は400字詰原稿用紙を使用し、原則として30枚以内とします。30枚を大巾に越える場合は、内容の概略、予定の頁数をそえて編集部にご申し出下さい。
2. 数式、記号の書き方はProgress, Journalの投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、oとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv等が一番間違いやすい。
3. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
4. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
5. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らない図(13cm×19cm)は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
6. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
7. **別刷は原則として作りません。**どうしても別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p: 物研出来上り頁数

x: 別刷所要部数

a: 別刷1頁の代金 3円

b: 製本代(別刷1部につき) 30円

別刷代 = (ap + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受とってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

8. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

[名古屋大学]

○ S研 - 中野研 合同コロキウム

10月24日 大 富 賢 一 (中野研 D<sub>2</sub>)

“ Solid Hydrogen Halide の相転移に対する1つの model ”

○ 物理教室談話会

11月 1日 矢 島 達 夫 (物性研)

“ 光混合とその応用 ”

11月 8日 深 田 栄 一 (理研)

“ 生体高分子の圧電気現象 ”

○ 応物教室談話会

11月 8日 石 橋 善 弘 (名大・工)

“ 強誘電体研究における最近の話題 ”

— 間接型強誘電体 —



---

プレプリント案内

---

[東北大・応物 桂研]

A. R. Bishop

A use of Bethe lattice solutions for percolation-constrained phenomena

A. R. Bishop

Percolation theory and the Ising model for a class of triangular cactii

Sasuke Miyazima, Kazushige Ishii and Itiro Syozi

Percolation theory in an anisotropic Bethe lattice

Yoshinori Takahashi and Fumiaki Shibata

Spin coherent state representation in non-equilibrium statistical mechanics

I. Mannari and H. Hidaka

Random flight theory and the measurement of fibre length with special reference to the length of DNA

William G. Madden and Donald D. Fitts

On the calculation of a corrected radial distribution function

William G. Madden and Donald D. Fitts

A re-examination of the HNC theory for the radial distribution function

J. D. Gunton and Th. Niemeijer

A modified universality hypothesis for the eight vertex model

L. Gunther, Yoseph Imry and David J. Bergman

Bose Einstein condensation in one and two dimensions

Huzio Nakano

Order of the phase transition related to the interaction and the degeneracy with proposal for an exact problem

J. D. Gunton

A comment on a critical null vector of the n-vector model

Hazime Mori

Stochastic processes of macroscopic variables

プレプリント案内

[阪大・教養 西山研]

Yoshinori Takahashi and Fumiaki Shibata

Spin Coherent State Representation in Non-Equilibrium Statistical Mechanics

Takeo Izuyama and Motohiko Saitoh

Effects of Long Range Coulomb Interaction on the Peierls Instability

Katsuhiko Nagai

Collective Excitations from the Balian-Werthamer State

Minoru Takahashi

On the Validity of Collective Variable Description of Bose Systems

Minoru Kimura

Possible Phases and Some Properties of the One-dimensional Metal with the Half-filled Band

Hiroshi Ueyama

On Statistical Mechanics of Time-Dependent Phenomena in Classical Systems

H. Fukuyama, T. M. Rice, C. M. Varma and B. I. Halperin

Some Properties of the One Dimensional Fermi Model

Satoshi Takada, Itsuo Ohnari, Hideo Kurosawa and Yoshihiro Ohmura

On the Dynamics of KDP Type Ferroelectrics I

— acoustic anomaly —

[広大・理 物性]

49.10.23. Yamad, K.

Perturbation Expansion for the Anderson Hamiltonian II  
(TECHNICAL REPORT OF ISSP) Series A No. 670.

49.11.13. Izuyama, Takeo and Saitoh, Motohiko

Effects of Long Range Coulomb Interaction on the Peierls Instability

[東大・理 久保研]

- (200) 11. Edited by Dr. A. M. Stoneham  
Theoretical Physics Division Progress Report July to Dec. 1973
- (201) 11. Katsuhiko Nagai  
Collective Excitations from the Balian-Werthamer State
- (202) 11. D. G. Thouless  
Critical Fluctuations of a type II superconductor in a magnetic field
- (203) 11. Minoru Tanaka and Yoshihiko Fukui  
Simulation of the Three-particle Distribution Function in a Long-range Oscillatory Potential Liquid
- (204) 11. Yoshitake Yamazaki  
The Cross-over Exponent up to  $\epsilon^3$  ( $\epsilon = 4 - d$ ) by Using Callan-Symanzik Equations
- (205) 11. Shigetoshi Katsura  
Fluid-solid transitions of the lattice gases
- (206) 11. P. Szépfalusy and L. Sasvári  
Application of the  $1/n$  expansion to the critical dynamics of a model for structural phase transitions
- (207) 11. J. D. Gunton  
A Comment on a Critical Null Vector of the  $n$ -Vector Model
- (208) 11. T. Satoh, R. G. Jurriëns, K. W. Taconis and R. de Bruyn-Ouboter  
Cooling by Compression of  $\text{He}^3$  in the Mixing hamber of an Alternative Leiden Dilution Refrigerator
- (209) 11. L. Gunther and J. Zitkova-Wilcox  
The Mössbauer Effect : A Potentially Ideal Probe Into Brownian Motion
- (210) 11. Kosaku Yamada  
Perturbation Expansion for the Anderson Hamiltonian II
- (211) 11. Tohru Ogawa, Kunigiko Kanda and Takeo Matsubara  
Gutzwiller Approximation for Antiferromagnetism in Hubbard Model
- (212) 11. L. P. Hwang, <sup>†</sup>C. F. Anderspm and H. L. Friedman  
The Ursell-Function Structure of the Memory Function



プレプリント案内

- (213) 11. H. J. Carmichael<sup>†</sup> and D. F. Walls  
TWO-TIME AVERAGES AND THE PRINCIPLE OF DETAILED BALANCE  
FOR OPEN MARKOFFIAN SYSTEMS.  
I. — CLASSICAL FORMALISM
- (214) 11. Klaus Hepp  
TWO MODELS FOR JOSEPHSON OSCILLATORS
- (215) 11. Klaus Hepp  
THE ONSAGER RELATIONS FOR QUANTUM SYSTEMS WEAKLY  
COUPLED TO KMS RESERVOIRS
- (216) 11. J. D. Gunton and Th. Niemeijer  
A Modified Universality Hypothesis for the Eight Vertex Model
- (217) 11. D. Bedeaux and P. Mazur  
A GENERALIZATION OF FAXÉN'S THEOREM TO NON STEADY  
MOTION OF A SPHERE THROUGH A COMPRESSIBLE FLUID IN  
ARBITRARY FLOW

訂 正

Vol. 22 no. 6 の「モスクワ滞在記 I」(勝木 渥)に誤植がありますので訂正します。

- 573頁 18～19行目

それを含めて27人の研究スタッフがおり、他にテクニシャン、研究補助者など  
.....

アンダーライン部分を挿入

- 580頁 下から6行目

誤 そしてそれはわれらにとって

正 そしてそれはかれらにとって

- 581頁

誤 自由のための戦に破れた

正 自由のための戦にたおれた

## 編 集 後 記

木枯らしが肌身にしみる季節です。A 教室では 10 月から書籍購入差止。C 教室ではもう 9 月から差止めですよ。来年からあの雑誌はやめることにしました。うちも気がついたら赤字ですよ、でも、培養基だけはなんとか確保しないと。F 校なんか数年前から研究費は自己負担だそう。大きな機械は維持費だけでも莫大なもの、京大理学部のパンデグラフ加速器も 12 月は運転休止にしなければならなくなったそう。最近こんな話が矢継早に耳に入ってきて来ます。インフレのもと、どこの大学にとっても師走の風は冷めたそうです。

必要な計器もなく、燃料や食糧の補給も乏しく、無方針に洋上を漂流させられた「むつ」が本当にひとごとと思われなくなりました。こんな時にこそ、物性研究者の共通の「ひろば」を拓けるように、「物性研究」を育てていただきたい、続けていきたいと、編集委員会では考えています。御協力下さい。

(Y. K.)

### 物 性 研 究

第 23 巻 第 3 号  
1974 年 12 月 20 日発行

発行人	川 崎 恭 治 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町室町西入 TEL (441) 1659 (431) 4789
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

## 編 集 後 記

木枯らしが肌身にしみる季節です。A 教室では 10 月から書籍購入差止。C 教室ではもう 9 月から差止めですよ。来年からあの雑誌はやめることにしました。うちも気がついたら赤字ですよ、でも、培養基だけはなんとか確保しないと。F 校なんか数年前から研究費は自己負担だそう。大きな機械は維持費だけでも莫大なもの、京大理学部のパンデグラフ加速器も 12 月は運転休止にしなければならなくなったそう。最近こんな話が矢継早に耳に入ってきて来ます。インフレのもと、どこの大学にとっても師走の風は冷めたそうです。

必要な計器もなく、燃料や食糧の補給も乏しく、無方針に洋上を漂流させられた「むつ」が本当にひとごとと思われなくなりました。こんな時にこそ、物性研究者の共通の「ひろば」を拓けるように、「物性研究」を育てていただきたい、続けていきたいと、編集委員会では考えています。御協力下さい。

(Y. K.)

### 物 性 研 究

第 23 巻 第 3 号  
1974 年 12 月 20 日発行

発行人	川 崎 恭 治 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町室町西入 TEL (441) 1659 (431) 4789
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内



---

お知らせ

---

## — Progress に つ い て —

最近の物価の高騰で、Progress of Theoretical Physics 誌（以下 Progress と略記）の出版事情は一層深刻さを増してきています。現状を端的に言いますと、科研費補助の大巾増額の実現や研究者各位の御協力で購読数に大巾な減少がなかったことに支えられて、辛うじて出版の継続が可能であるという状況であります。

しかし、1975年については、直接出版費の3割の値上げは避けられないなど事情は更にきびしく、このまゝでは出版を続けることがきわめて困難な見通しです。従って、Progress 編集部及び理論物理学刊行会としましては、止むをえず次の措置をとることになりました。

(1) Progress 本文原稿の枚数制限を今少しきびしくする。

(2) 1975年会費を値上げする。

(1)については、Progress 購読会員及び投稿者がおられる研究機関に既にお送りした「Progress 編集部からのお知らせとお願い」を、こゝに資料(I)として掲載させていただきます。(2)については、インフレ下で肥大する財政状況では、印刷費の30%の値上げによる支出増は約1000万円に達し、これは運用面の努力でカバーできるものでなく、結局主たる収入源である会費値上げに頼らざるをえなくなりました。(資料(II)を参照下さい。)刊行会としては、1974年に続いての会費値上げは何とか避けたいという気持ちで検討しましたが、回避することは不可能でした。しかし、科研費補助金が大巾に増額されたことでもあり、別刷代金(投稿料+別刷印刷費)は1974年に引続いて据置くことにします。このようなProgressの財政事情をご理解いただくため、資料(III)に収支の経年変化を図示しましたので、ご参照下さい。(1972年までの資料は、素粒子論研究 Vol. 48 No. 1 (1973) 61頁; 物性研究 Vol. 21 No. 2 (1973), 124頁にあります。)

なお、この際投稿者各位にお願いしたいこととして、このような厳しい出版事情をご理解下さって、印刷業務の過程で余分の労力と時間を費やすようなことを著者側から持込まないでいただきたいと思います。それは、大は著者校正時点での大巾な原稿修正から、さまざま経験しています。これは、単に実費を支払えばすむということではなく、出版を遅らせることになっている点が深刻です。このような点に関連して、資料(IV)として

お知らせ

投稿者への要望をまとめました。近々「投稿のしおり」の改訂版を出しますので、投稿のさいご参照下さるようお願いいたします。

1974年 11月

Progress 編集部  
理論物理学刊行会

## 資 料 (I)

## Progress 編集部からのお知らせとお願い

## — Progress 論文 (本文) 原稿の枚数制限について —

最近の物価の高騰のため、Progress の出版経費は急激に増加し、出版事情は深刻さの度をましてきています。現在辛うじて出版の継続が可能であるのは、昨年 8 月以降の原稿枚数制限に研究者各位のご理解があり、総頁数の増大が押えられたこと、科学研究費の研究成果刊行費補助金の大幅増額が 1974 年度に実現したこと、1974 年 1 月号からの会費値上げにもかかわらず、国内の個人及び研究機関の会員数 (購読部数) に大きい減少がなかったこと、という事情に依っています。

しかし、印刷費、紙代の値上り、人件費増、更には予想される郵送費の値上げ等の一連の支出増加を考えますと、現在の原稿枚数制限のままで出版を続けていくことは不可能な事態に立至っています。実際、毎月 1 冊出版の予定に対し、8 月末現在掲載決定済の原稿は既に 2 冊分以上となり、このままでは積残しによる掲載の全体的遅れが深刻化することは明かです。また、長年常に協力的であった印刷所も、最近では印刷頁数を減らしてほしいと要望する状況です。

このような実情ですので、会費 (購読料) の値上げによって出版費の増加をまかなうにしましても、現在の財政状況と出版能力のもとでは、毎号の頁数を増やすことは不可能です。それどころか出版を遅らさないためには、原稿の枚数制限を今少しきびしくする措置をとるほかありません。

今後投稿される際には、以上のような事情を考慮され、内容の一層の向上と同時に、表現をできる限り簡潔にするよう、格段のご配慮をいただきたく存じます。当方といたしましても、1974 年 11 月 1 日以降 (海外からの投稿は 1975 年 1 月 1 日以降) に受理される論文について、論文原稿一篇の長さに次の制限を設けさせていただきたく存じます。

- (a) 原則として、投稿論文 (本文) は標準原稿 <sup>1)</sup> で、図を含めて <sup>2)</sup> 30 枚以内。
  - (b) 止むを得ない理由によって、論文の長さが 30 枚をこえる場合 (他し、図を含めて 45 枚以内) は、レフェリーの意見にもとづいて編集会議が特に認めた論文に限って掲載することにします。なお、この場合には掲載が多少おくれることがあります。

## 資 料

註1) A4の紙に double space, pica size で 25 行タイプしたものを標準原稿 1 枚とします。他の size の場合は pica size に換算します。(例えば, elite size では約 20 行に対応。)

2) 図はグラフ 1 つ → 原稿 1/2 枚, 絵 (illustration のための簡単な図) 1 つ → 原稿 1/4 枚, と換算します。例えばある Fig. が (a), (b), (c) よりなるときは, 図は 3 つと数えます。

上記の制限によって, 投稿者各位にご迷惑がかかることは当方も重々承知いたしておりますが, このままでは Progress の刊行自体が不可能になる事態も予想されますので, Progress の現況をご諒察の上, よろしくご協力下さるようお願い致します。

1974年8月

Progress of Theoretical Physics 編集長

湯 川 秀 樹

### ( 追記 ー編集室からー )

- (i) 会費値上げは, 現在のインフレ状況では避けられず, 1975年1月号より実施することになりますが, 科研費による国庫補助が大巾に増額したことでもあり, 別刷代(投稿料+別刷作成費)は現行のまま据置きます。
- (ii) 以前(1973年7月以前)に行なったことのある長文の論文の分割掲載の措置は, 行なっておりません。
- (iii) 一律に 30 枚以内というのでは, 個々の研究の特殊性への配慮が無さすぎるとお感じになる方もおられるかと存じます。出版の実情はきびしい点をご理解下さった上で, なお 30 枚以内では力作は投稿できないというような場合のために, (b) の例外的措置が設けられています。従ってこの場合には, レフェリーから編集会議の結論に至る段階



での検討に、より時間がかかる点をあらかじめご諒解下さい。

- (Ⅳ) 最近、同じ原稿枚数でも刷上り頁数が多くなる傾向があります。標準原稿の基準で原稿をととのえて下さるようお願いいたします。
- (Ⅴ) 雑誌の各号には、枚数制限前に受理した論文と新しい規定実施後に受理した論文が同時に掲載されることがあります。掲載された論文の長短は、(a)と(b)の2つの場合があることその他、上記の事情もあることをご諒解下さい。

## 資 料

### 資 料(Ⅱ)

#### Progress の会費値上げについて

最近の出版経費の急騰のため、1974年度の会費のまゝでは、Progressの出版を継続することは不可能な事態に立至りました。従って、理論物理学刊行会としましては、1975年1月号(Vol. 53, No. 1)よりの会費(購読料)を以下のように値上げさせていただきます。

( 現 行 ; 値 上 率 )

国内個人 (Progressのみ)	年間 9,600円 ( 7,500円 ; 28%)
国内機関 (Supplementを含む)	" 27,000円 (20,400円 ; 32%)
海外個人 ( " )	" 20,000円 (15,000円 ; 33%)
海外機関 ( " )	" 40,000円 (27,000円 ; 48%)

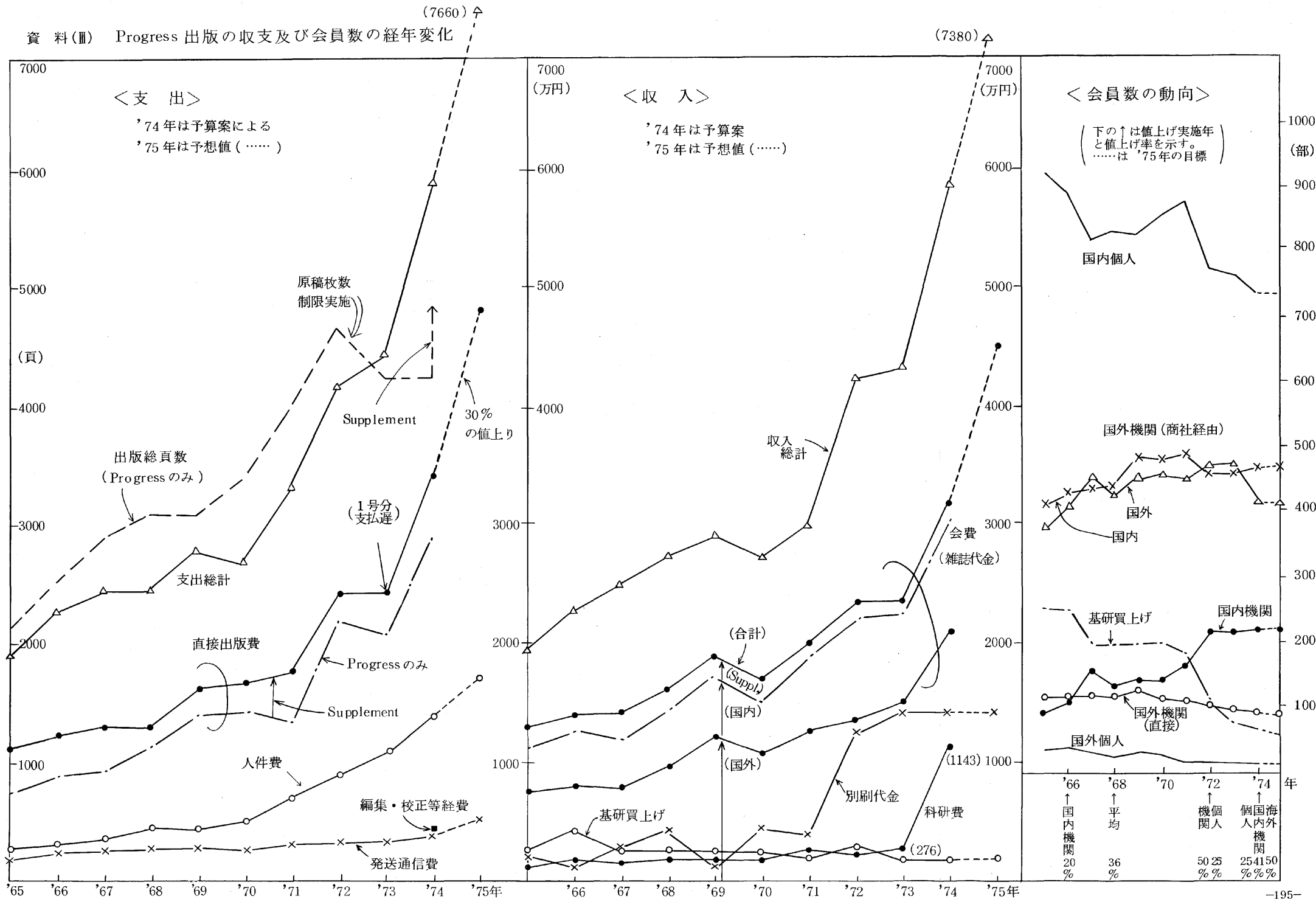
現在の予想としましては、この会費値上げによってさえ、出版経費の増加を完全にまかない切れない状況です。しかし、研究者各位のご協力によって、国内の個人及び研究機関の購読数の減少を招かずに推移できれば、何とか出版を維持できるものと思っております。なお、別刷代金(投稿料+別刷印刷費)は、現行に据置きます。

各位のご理解をお願いする次第です。

1974年11月

理 論 物 理 学 刊 行 会

資料(Ⅲ) Progress 出版の収支及び会員数の経年変化



## 資 料(Ⅳ)

## 投 稿 者 各 位 へ の 要 望

投稿論文が掲載決定になって印刷業務に入った段階で、投稿者がわずかな配慮をすれば避けられるものでありながら、余分の労力・時間・経費を費やすことがあります。それは、投稿規定通りであれば勿論起りえないことです。刊行会としましては、出来るだけ著者の立場を理解して処置することを考えていますが、印刷業務の過程で著者サイドから持込まれる問題の処置のため雑誌の出版に遅れを招くようなことも起っている現状から、以下の点に特に御留意下さるよう投稿者各位に要望いたします。

- (1) 著者校正時点での大巾な原稿修正は認められていません。原稿修正に対しては、実費を支払っていただきますが、これは経費の問題で済まず、出版のおくれを招き他の投稿者に対しても迷惑をかけることとなります。(現在出版のおくれをとり戻すべく刊行会も努力し、印刷所にも要求している状況です。)
- (2) 綿密な著者校正をお願いします。著者校正でのチェックは、まず完全に直ります。原稿中の『要著者注意』には必ずご回答をお忘れなく。

## (3) 文字指定についてのお願い

- 文中でイタリックにすべきもの、数式中で立体にすべきものには完全に指定してください。

数式中で立体にすべきものは  $\cos$ ,  $\log$ ,  $\text{Re}$ ,  $\text{Im}$ ,  $\text{Sp}$ ,  $\text{Tr}$ ,  $\ln$ ,  $\exp$  (但し  $e$  とすればイタリック),  $\Sigma$ ,  $\Pi$  などです。(微分の  $d$  はイタリック)

- 次のものは区別が困難です。確実に指定してください。

ー (ハイフン) と - (マイナス)

' (アポストロフィ) と ' (プライム)

1 (イチ) と l (エル)

x (エックス) と  $\times$  (カケル)

0 (ゼロ) と O (大文字のオー)

° (degree sign) と ° (上ツキゼロ)

手書きのときは、さらに次のようなばあいの指定が必要です。

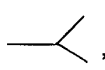


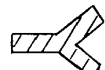
- + (タガー) と + (上ツキプラス)



## 資 料

- $|$  (絶対値) と  $1$  (イチ)
- $k$  と  $\kappa$  (ギ),  $x$  と  $\chi$  (ギ),  $a$  と  $\alpha$  (ギ) など, ローマ字と間違いやすいギリシア文字
- $c, k, o$  のように大文字・小文字の形が似たもの

(4)・活字にない文字記号は著者の工夫によって避けてください。文章中に凸版が入ることになると、大変手数と時間がかかります。

たとえば, --- , ,  and  ---

のようなものは図にまとめて、記号をつけて文中で用いるべきです。

- ギリシア文字の下ツキゴチ、花文字ゴチは、ありません。
  - $rp$ をあらわす  $p$ などは使わないでください。
- (5) 図原稿には縮尺 ( $\frac{1}{3}$  とか、幅 6 cm というように) および文字指定 (こちらでトレースのばあい) を書き入れてください。図が正しく入っているかどうか、著者校正の際にしっかり確かめておいてください。凸版のとりかえに時間をとられてしばしば発行の遅れをもたらすため、製版後の図の変更は認められていません。

(註) 『投稿のしおり』改定版は、1975年3月頃出す予定です。

## 購読規定

### 個人購読

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるだけ1年間分会費を御支払い下さい。  
なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として、100円をお支払い下さい。

#### 1年間の会費

1st volume	2,340円
2nd volume	2,340円
計	4,680円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。  
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校・研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、伏金は、1 Vol. 4,380円、1冊730円です。この場合、入会金は不要です。学校・研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。  
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前くらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。



物 性 研 究 23—3 (12月号) 目次

○4次元のRiccati方程式	小暮陽三	177
○ニュース		182
○プレプリント案内		183
○訂 正		187
○編集後記		188
○お知らせ「Progress について」	Progress 編集部理論物理学刊行会	189
○基研研究会報告「配位相転移の研究」		B 1



物 性 研 究 23—3 (12月号) 目次

○4次元のRiccati方程式	小暮陽三	177
○ニュース		182
○プレプリント案内		183
○訂 正		187
○編集後記		188
○お知らせ「Progress について」	Progress 編集部理論物理学刊行会	189
○基研研究会報告「配位相転移の研究」		B 1